

|     |      |      |     |
|-----|------|------|-----|
| 責任者 | 法学部長 | 作成部局 | 法学部 |
|-----|------|------|-----|

### 2021年度に向けた教育研究目標

|   |  |                        |                        |                        |  |                              |
|---|--|------------------------|------------------------|------------------------|--|------------------------------|
| <b>【A票:教育研究目標1】</b>   |  |                        |                        |                        |  |                              |
| (タイトル)  |  |                        |                        |                        |  |                              |
| 科学的な思考方法の修得   |  |                        |                        |                        |  |                              |
| (狙い内容)  |  |                        |                        |                        |  |                              |
| 対象を直観的・主観的ではなく、客観的・多面的に観察し、論理的に分析を進めていく方法を身につけること。  |  |                        |                        |                        |  |                              |
| <b>1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)</b>  |  |                        |                        |                        |  |                              |
| 初年次におけるスタートアップ演習において、「調べたうえで読む・話す・書く」というスタディー・スキルを十分に身につけたうえで、法学・政治学の専門科目を「入門科目から専門科目へ」というスパイラル構造に従って効果的に学習し、また研究者教員以外の弁護士や司法書士などによる講義や演習、経済学部との連携講義での地方行政に現在携わる公務員による講義や演習を受講し、さらに法学部で開催される他大学の教員の講演会に積極的に参加することにより、対象を客観的・多面的に観察し、論理的に分析できる力をしっかりと身につけること。  |  |                        |                        |                        |  |                              |
| <b>2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。</b>   |  |                        |                        |                        |  |                              |
| 上記の目標設定の背景としては、初年次において、本格的な専門科目の学習の前に、図書館で情報検索を学び、ノート・テイクのノウハウを学び、さらに本を要約させることは基本的なスキルとして非常に重要であり、また法学部では、法的な概念を用いて抽象的、論理的に、そして多角的にものごとを検討することが重要であることから、このような教育理念は本学法学部のソーシャル・アプローチに通じていることにある。<br>課題としては、スタートアップ演習で上記のノウハウをしっかりと身につけさせることができているのか、そこに配置される上級生のラーニングアシスタント(LA)は十分に一定数が確保され、1回生をサポートできているのか、また、研究者教員以外の講義及び演習の履修者数を増加させることなどについて調査及び検討が必要である。<br>現状としては、スタートアップ演習は単位修得者の割合は向上しており(2015年度98.9%)、またLAも確保されているが、LA自身が受講する講義と重なるという問題が発生している。さらに、研究者教員以外の講義の履修者数を増加させることについては十分な検討はなされていない。 |  |                        |                        |                        |  |                              |
| <b>3. 達成度評価</b>   |  |                        |                        |                        |  |                              |
| 評価指標  | スタートアップ演習受講生のアンケート調査によるスキルの十分な達成の割合。<br>① 合。<br>② スタートアップ演習受講生のアンケート調査によるLAIに対する十分な満足度の割合。<br>③ 研究者教員以外の講義や演習の各学期の履修者の数。 |                        |                        | 評価尺度                   | A: ①70%以上 ②90%以上<br>③3000人以上<br>B: ①50%~69% ②80%~89%<br>③2500人~2999人<br>C: ①30%~49% ②60%~79%<br>③2300人~2499人<br>D: ①30%未満 ②60%未満<br>③2300人未満 |                              |
| <b>4. 年度毎の目標値</b>   |  |                        |                        |                        |  |                              |
| 2015年度(現状)  | 2016年度   | 2017年度                 | 2018年度                 | 2019年度                 | 2020年度   | 2021年度                       |
| ①31%<br>②61%<br>③2280人  | ①38%<br>②65%<br>③2400人   | ①45%<br>②70%<br>③2500人 | ①50%<br>②75%<br>③2600人 | ①56%<br>②80%<br>③2700人 | ①62%<br>②85%<br>③2800人   | ①70%以上<br>②90%以上<br>③3000人以上 |

|   |                                   |        |        |        |   |        |
|---|-----------------------------------|--------|--------|--------|---|--------|
| <b>【A票:教育研究目標2】</b>   |                                   |        |        |        |   |        |
| (タイトル)  |                                   |        |        |        |   |        |
| 広範な知識と社会的視野の獲得  |                                   |        |        |        |   |        |
| (狙い内容)  |                                   |        |        |        |   |        |
| 法学・政治学の専門教育のみに止まらず、歴史学、哲学、心理学、社会学、経済学などの諸科学が明らかにしてきた広範な知識を身につけ、さらに広範な社会的現実に関心を向けられるようにすること。   |                                   |        |        |        |   |        |
| <b>1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)</b>  |                                   |        |        |        |   |        |
| 法学・政治学の専門教育だけに止まらず、歴史学・哲学・心理学・社会学・経済学などの諸科学が明らかにしてきた広範な知識を身につけ、さらに広範な社会的現実に関心を向けられることができるように、単なる他学部履修ではなく、他学部及び学部以外のセンター等から提供されたプログラム[副専攻プログラム]を学ぶことにより、広範な知見と深い専門性を備えること   |                                   |        |        |        |   |        |
| <b>2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。</b>   |                                   |        |        |        |   |        |
| 上記の目標設定の背景には、法的・政治的な問題を解決するためには、専門的な知識だけではなく、歴史学・哲学・心理学・社会学・経済学などの視点から多面的な検討をすることでより説得力のある結論を導き出すことができることにある。しかし、複数分野専攻制(MS)プログラムの受講者は、2013年度18名、2014年度14名、2015年度27名であり、その数は多くはない。そこで、学生に対してこのような副専攻プログラムに参加するよう促すことが必要である。 |                                   |        |        |        |   |        |
| <b>3. 達成度評価</b>   |                                   |        |        |        |   |        |
| 評価指標  | 副専攻プログラムの受講者を増加させる。副専攻プログラムの受講者数。 |        |        | 評価尺度   | A: 100人以上<br>B: 60人~99人<br>C: 30人~59人<br>D: 30人未満 |        |
| <b>4. 年度毎の目標値</b>   |                                   |        |        |        |   |        |
| 2015年度(現状)  | 2016年度                            | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度  | 2021年度 |
| 27人   | 30人                               | 35人    | 45人    | 55人    | 70人   | 80人以上  |



**【A票:教育研究目標5】**

(タイトル)

国際的地球的な視野の確保

(狙い内容)

本学の伝統を踏まえ、自由な精神に基づいて常に国際的・地球的な視野を身につけること。  
これらの教育目標を、以下の実施目標として具体化しています。

**1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)**

本学の伝統を踏まえ、自由な精神に基づいて常に国際的・地球的な視野を身につけるために、全学のグローバルスタディーズ科目である海外フィールドワーク・国連セミナー・世界市民論などを広く受講し、また法学部主催の法職等説明会に参加して、実際に国際的に活躍している法学部卒業生の話聞き、国際的・地球的に物ごとをとらえることの意義及び重要性をしっかりと理解すること

**2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。**

上記の目標設定の背景には、今後さらにグローバル化が進み、これにより各国は相互に依存し、他国や国際社会の動向を無視できなくなることから、このグローバル社会を生き抜くために、グローバルスタディーズ科目の履修がますます必要かつ重要となることにある。したがって、この科目の受講者を増やす必要がある。また、現在法学部のスタートアップ演習の中で実施されている法職等説明会では、企業の法務部に所属し、自らも外国で企業相手に活躍している卒業生の話聞くことができることから、自分とは異なる文化や歴史そして独自の法をもつ人々と接することの意義、そして難しさを知ることができる

**3. 達成度評価**

|      |                     |      |  |
|------|---------------------|------|--|
| 評価指標 | グローバルスタディーズ科目の受講者の増 | 評価尺度 | A: 600人以上<br>B: 400人～599人<br>C: 300人～399人<br>D: 300人以下 |
|------|---------------------|------|--|

**4. 年度毎の目標値**

| 2015年度(現状) | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 278人       | 300人   | 350人   | 400人   | 450人   | 500人   | 600人以上 |